

## 2022年1月ハイパーカレンダーレポート

2022年は新型コロナウイルスの新たな変異種オミクロン株による感染流行による第6波の到来で幕を開けた。12月には実行再生産数が1.01まで下がったものの、急激な感染者の増加により、一時は5.9（1月9日）まで上昇した。10月末から感染者ゼロを続けてた大分においても、年明けから急増し、まん延防止重点措置が、県内全市町村において、1月27日～2月20日まで適用されている。

ハイパー研では、昨年12月20日～21日にレンブラントホテル大分で開催した「[第14回別府湾会議](#)」の余韻も覚めやらぬ年明けであったが、世界中で猛威を振るうコロナ禍には、ワクチン接種と基本的な対策に頼らざるを得ない。感染が小康状態の12月にオンラインだけではなく、会場でのリアル開催もハイブリッドで出来たのは僥倖であった。1990年にスタートした別府湾会議は、当時としてはIT関係では珍しかった深夜帯までの「夜なべ談義」が一つの魅力であった。それも含めて交流会等をすべて中止としたのは、30年来始めてのことであった。識者も市民も一堂に会しての議論や懇親を2年後に実現したいものだ。

さて、今年初めてのイベントは、大分県教委の教育情報化構想策定から10年目を迎える「[第10回教育情報化カンファレンス](#)」である。こちらは企画段階より完全オンラインを予定していたので、コロナの影響は最小限であった。おもな対象が教職員ということもあり、昨年度の経験を踏まえて、今回始めてDay1:1月6日とDay2:1月12日の2日構成の開催とした。いずれも1時間半程度とすることで参加のハードルを下げたのである。

GIGAスクール構想における子どもたちの情報活用能力を解説した稲垣忠氏は、現状をとでも分かりやすく解説、大分県立日田高における授業でのICT活用を紹介した遠藤源治氏は実践的内容を発表、PISAでトップ！のエストニアから講演の吉戸翼氏は電子国家における教育現場の実態に関する報告であった。また最近注目のデジタル・シティズンシップについては豊福晋平氏が解説、最後に玖珠町立くす星翔中学校と中津市立鶴居小学校の生徒たちからは、目からウロコの興味深い発表であった。今回も満足度高く有意義な時間だった。

月末30日の日曜日は、「[新築よりお得!?大分県での空き家リノベーション](#)」というイベントを開催した。今年度、ハイパー研にとっては、ちょっと稀有なテーマである移住政策に関する支援「都市圏女性移住促進事業」を実施している。具体的には、福岡市内において移住に関する<セミナー+ワークショップ（①英語教育、②DIY、③温泉）>を開催することで、大分ファンを増やそうという企画だ。それらのまとめが今回のイベントである。オンラインで大分ハイパー研スタジオから配信、テレビ中継同様にZOOMによる現場レポートを杵築と別府から行ったのは画期的で好評であった。

（文責：青木栄二）